

<小学校 国語科>

主体的な学び手が育つ授業の創造にむけて ～4年説明的文章教材「キョウリョウをさぐる」の指導を通して～

具志頭村立具志頭小学校教諭 德元ひろみ

目 次

I 研究テーマ設定の理由	21
II 研究仮説	21
III 研究の全体構想図	22
IV 研究内容	23
1 主体的に学ぶとは	23
2 課題解決的学習過程について	23
3 個を生かす学習指導の工夫	24
4 発展学習について	25
V 授業実践	26
1 単元名 段落のつながりに気をつけて	26
2 単元設定の理由	26
3 単元の指導目標	26
4 単元の指導計画	27
5 評価計画	27
6 実践例 1	27
7 実践例 2	29
VI 研究の成果と今後の課題	30

<小学校 国語科>

主体的な学び手が育つ授業の創造にむけて ～4年説明的文章教材「キヨウリョウをさぐる」の指導を通して～

具志頭村立具志頭小学校教諭 徳元ひろみ

I 研究テーマ設定の理由

21世紀を展望した教育は、情報化、国際化、価値観の多様化が、さらに進むと予想される。こうした社会に生きる子どもたちに主体的に行動する自己教育力を育成することは時代の要請であり重要な課題である。主体的に行動する自己教育力とは、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力と態度のことであり、将来に役立つ生涯学習の基礎になるものと言える。そのためには、自ら学ぶ意欲と思考力判断力、表現力などの能力の育成を基本とする学力観に基づいて学習指導を構想し、展開する必要がある。従来の教師中心の学習指導の展開ではなく、児童一人ひとりの成長の過程を見守り、それぞれのよさや可能性を育てるという指導観に立って、児童の学習活動を支援することが大切である。

これまでの説明的文章の指導を教師の側から振りかえってみると、児童の反応をあまり重視しないで、説明されている内容の読み取りだけさせて終わってしまったり、説明されている内容より語句や段落の関係等の技能面を重視しがちであったりした。それゆえ、自ら文章を読みとる楽しさやおもしろさを味わうことが薄れ、言葉を通して対象を認識するような能力も育たず、主体的に学習する「学び方」の指導もなされなかった。この点についてアンケートの結果から児童の実態をみると「国語の学習が好きではない」と答えたのが半数以上もいる。その理由は、「文章を書くのが面倒だから」「発表するのが恥ずかしい」「何か書かれているのか読み取ることが嫌い」と答えている。しかし、読書することに関しては8割程度の児童が「好き」と答え興味を持って読み進めている。このことから、受身的な読書はできるが学習したことまとめたり、自分の言葉で発表したり、自分の考えを持って学び合ったりする積極的な学習がまだ身についていないことがわかる。

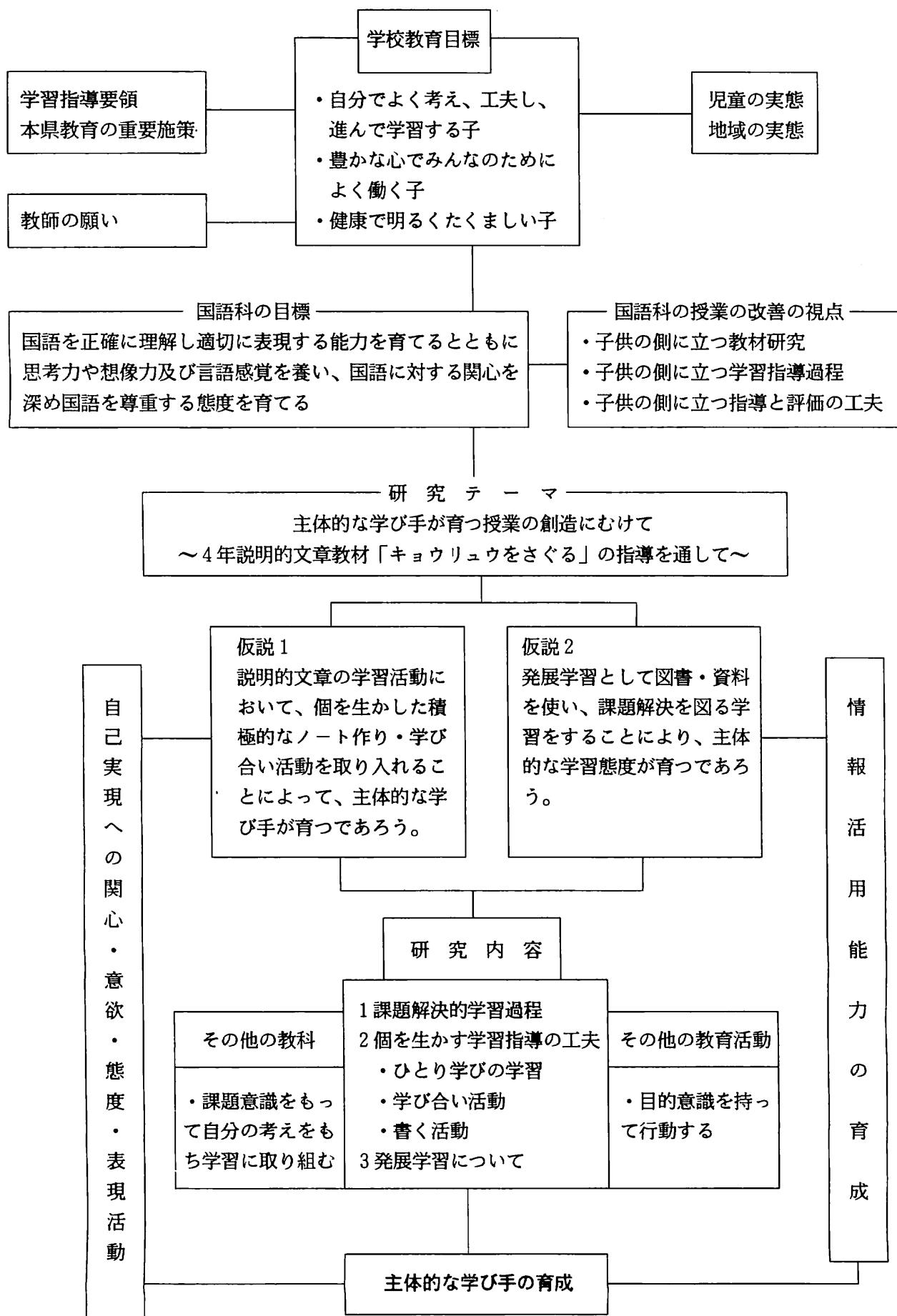
主体的に学ぶ児童の育成を図るために、体験的な学習活動や、話し合い活動、課題解決学習などを計画し、児童一人ひとりが目的を持ち、何をどのように学ぶかという主体的な「学び方」を身につけさせる必要があると考える。そのため、説明的文章の学習過程に課題解決的学習を取り入れ、さらに個に応じた学習指導を展開する必要がある。それを進めるにあたっては、指導のねらいや児童の実態に応じて児童の側に立ち、児童一人ひとりのよさや可能性が豊かに育っていくための手だての工夫し、学ぶ楽しさや成就感を味わわせる授業展開を試みたい。

そこで、教材を児童にとってより身近なものを選び興味・関心をもたせ、その上で問題意識を持たせ書き手の立場で課題を追求し解決し、それを学ばせたい。さらに、児童一人ひとりが自分の言葉によってものの見方や考え方をもてるように指導していきたい。そのためには、課題解決的学習過程のなかに「ひとり学び」の時間を保障し、子どもが意欲をもてるようなノート作り・学び合い活動等の工夫した授業の展開をはかれば、生き生きとした「子ども主体の授業」が進められると考える。さらに学び、新たな疑問が生じ、調べてみようという意欲を引き出し発展学習をさせることによって、図書・資料を積極的に活用し、主体的に学び続ける態度が育つであろうと考え本テーマを設定した。

II 研究仮説

- 説明的文章の学習活動において、個を生かした積極的なノート作り・学び合い活動を取り入れることによって、主体的な学び手が育つであろう。
- 発展学習として図書・資料を使い、課題解決を図る学習をすることにより、主体的な学習態度が育つであろう。

III 研究の全体構想図



IV 研究内容

1 主体的に学ぶとは

児童が生き生きと目を輝かせ自ら進んで学習に取り組む姿を教師として期待する。「主体的に学ぶ」と言うことは、他者から強いられることなく、自分の意志に基づき「勉強がおもしろいから」とか「新しいことを知りたいから」ということに価値を見い出し、意欲的に学んでいくことだと捉える。

また、思考力を重視する新しい学力観の立場について北尾氏は、

「第一に、自分の考えをもつ段階を確実にたどらせるように授業を組み立てる必要がある。

第二に、拡散的な思考を一点に収斂させ、焦点化を図る指導の段階が後に続かなければならぬ。」と述べている。つまり自分の考えをしっかりとたせ学び合うなかで、よりよいものへと焦点化することの重要性を強調している。

2 課題解決的学習過程について

学習者は、既習の学習体験で得た知識や能力を駆使して、本時の新しい課題に接近する。つまり、生きた学力を活用して課題解決の方法を発見し選択するわけである。

説明文による学習指導は、人間の社会生活に必要な知識や情報を伝達提供する目的をもって書かれた文章である。国語における説明文を読む学習は、書き手が「何について」「どんな考え方」「どんな事柄を取り上げて」「どのような構成で」思考を展開しているかを読みとることである。

今まで説明文の指導においては、読み手の主体的な反応はあまり重視されていない。単なる説明されていることがらだけを読みとって終わったり、技能的な側面だけを強調した指導になりがちであった。そうなると、文章を読みとる楽しさやおもしろさが薄れるばかりでなく、言葉を通して対象を正しく認識する能力も育たなくなってしまう。そうではなく、教材をより子どもの興味・関心をひく身近なものを選び関わらせることで、児童は教材に対して問題意識をもち学習することが重要である。学習のねらいを達成できるような課題づくりをさせ、主体的に課題解決していく学習過程を考えてみた。

(1) 教材に対して興味、関心をもたせ課題をもたせる

児童がもっている既存の知識や生活体験を想起させる。「何が、どのように説明されているか」

↓ 「もっと詳しく読みたい、この部分が分からぬ」など常に課題意識を持たせて読み進めさせる。

(2) 事柄のつながりを考えながら叙述に則して正確に読ませる

書き手は何にもとづいて書いているのか、どのような考え方のどんな筋道で書いているか等、客観的表现に依拠し事実を正確に読み取らせる。

要点をおさえ、記述のまとめをつかませる。「何について、どのようなまとめで書かれ、それらのまとめがどのように結びついて分かりやすく説明されているかをとらえさせる」

(3) 筆者の中心となる考え方と、自分の考えをはっきりさせながら理解させる

筆者がこう書いてあるから「なるほど」と簡単にうのみにするような読み方ではなく、自分の知っている知識や情報で自ら考え、調べることにより筆者の考え方に対して自分はどう思うかをまとめさせることができる。

(4) 学び合い自分の考え方を深めさせる

自分の考え方をもって、同じ課題を持つ友達同志を集め意見を交流する。その中でお互いの課題について解決させていく。その後、全員で読みを深める課題を追求し学び合いをしていくなかで、今まで知らなかった事が分かり、読みを深めさせることができる。また、相手の立場を認め多様な考え方を学ばせる。

(5) 発展学習において考え方を広げさせる

学んだ過程で新たな課題が生じ、もっと調べてみたいという意欲をもたせ図書・資料等を活用させる。その中で、集めたいろいろな情報を自分の言葉で表現されることによって、自分の考え方を広げさせる。学習の過程で習熟したことを、他の教科にも生かせるようにし、変化の激しい情報化社会に主体的に対応できる能力の育成をしたい。

3 個を生かす学習指導の工夫

説明的文章の学び方の手立てとして「ひとり学びのてびき」を作成し、課題解決学習に活用させることで、国語科の新学力観で求めている、一人ひとりが自ら学ぶ主体的な学び方の能力を身につけさせることができる。さらに、自分の考えをもって学習に臨むことができ、自他のよさを認め、個を尊重した活動の工夫で意図的に学ぶ態度も育成される。

(1) 「ひとり学びの学習」をとりいれる

ひとり学びにおいて児童が

①自分一人で、どれだけ教材にかかわって読みとれるか。

②教材にどれだけの興味、関心を示し学習できるか。

③学ばなければならないことは何か。

など児童一人ひとりの実態を教師が把握することが大切である。それぞれに持っている知識能力、興味が違い、その学び取り方もさまざまである。こうした個々の児童の学習に応じて学習を進め、それによって学習意欲を高めようとするものである。また、授業のなかで一人で学ぶ時間を保障することによって自分の考えをもたせ、それをもとに相互学習や一斉学習の中で話し合いを深めたりすることができる。このような学習を通して学習形態の多様化は進み課題解決学習のねらいも達成される。また、学習の中で誤答やつまずきも一人ひとりによってその原因や内容が異なる理解や到達の方法も多様である。一人ひとりの個性や能力に応じて適切な指導をすることによって一人ひとりの学習活動や理解度をより深め確かなものにするためにも評価を工夫して行わなければならない。個を生かした活動の工夫で、児童は意欲を高め学ぶ態度が育つだけでなく、自分の力で学習に取り組んでいくことを可能にする学習の方法や力も身につけることができる。

このように「ひとり学び」では、次のような自ら学ぶ自己教育力が育成される。

- ・一人ひとりにより深い理解が培われる。<基礎・基本>
- ・文章を読みとる力が培われる。<学び方>
- ・学習の成就感、自分らしさの自覚、自分の可能性を知る喜び、やる気<自信・意欲>

(2) 学び合い活動をとりいれる

「ひとり学び」で読み深めた思考活動は自力で読解したもので、不十分な読みであることが多いひとり学びの学習が、単なる個人学習として終わらせないために自分の考えをもって、同じ課題をもった友達が集まり意見を交流させることが大切である。また、ひとり学びで読みが深まりその考えをよりどころに、話し合いに入るので主体的に相互学習することができる。さらに、自他の考えを比較しながら聴くことで、自分の考えを深めたり友達のよさに気づいたり、自己を見つめ振り返るきっかけにもなりえる。十分なひとり学びから一斉学習までの相互学習の過程で、主体的に学ぶ子を育成することになる。

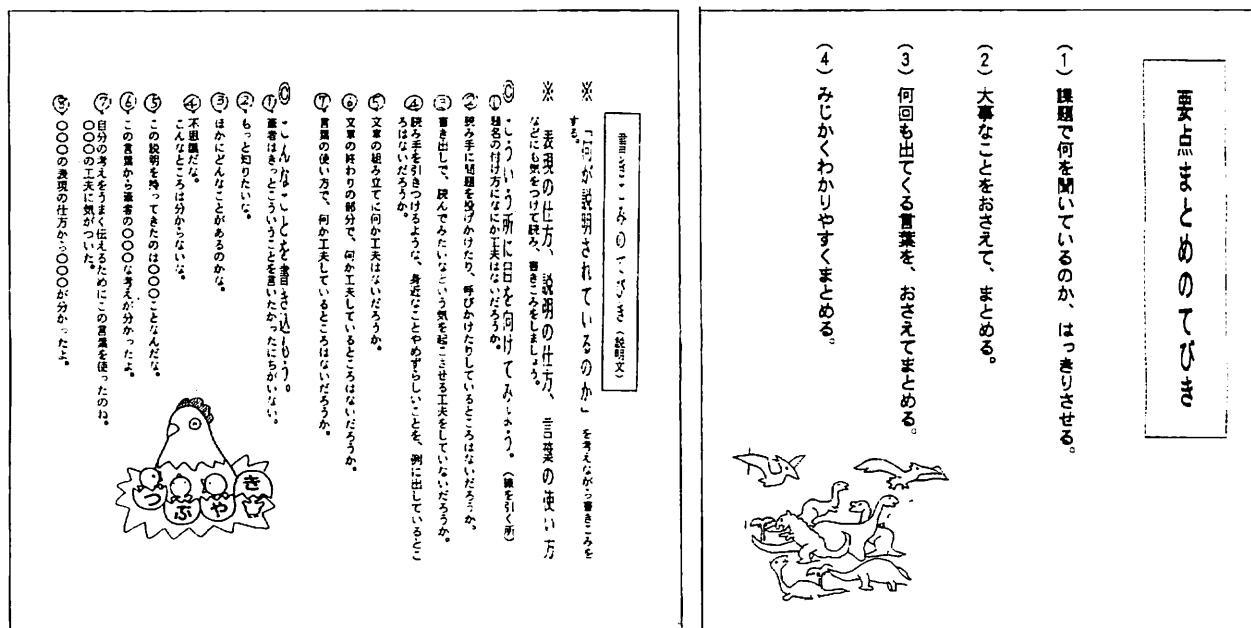
(3) 書く活動をとりいれる

ひとり学びのてびき (説明文)

ひとり学び	学習の仕方 (80点)
1 ☆声に出して3回読んでみましょう。	・読みない字があったら、その字に印をつけておいて、とばして読み進めていく。
2 ☆ノートに一行おきに複写をする。	・「。。。一字下がり」に気をつけて書く。
3 ☆わからない漢字や意味調べをする。	・国語・漢和辞典を使って調べましょう。
4 ☆形式段落に番号をうつ。	・一字下がっているところが段落の始まりです。気をつけながら分けていきましょう。
5 ☆筆者の課題をみつけます。	・話題提示は文章の前、結論は後ろの方にあることが多いです。時には少し変わった形で出てくる事もあります。
6 ☆結論(まとめ)をみつけます。	
7 ☆意味段落に分けてみます。	・話題提示・事例・結論を頭に入れて分けていきましょう。
8 ☆全文を読んで行間に感じたことを書き込んでおきます。	・はじめてわかった事、疑問に思ったこともっと調べてみたいことを書き込みましょう。
☆読み深めていくための課題をつくります。 ①簡単な課題は何度も読んだり友人にたずねてどんどん解決していきます ②筆者の課題を読み深めていくための大切な課題を残しておきます。それが全体の課題になります。	・課題を作る時の参考にしましょう。 ①何度も読んでもわからないこと、疑問に思うことは課題になります。 ②筆者の述べ方(書き表し方)の特徴や言葉の使い方の工夫からも課題がつくれます ③自分で「ここは大切だ」と思うところも課題になります。
10 ☆自分の考えた学級の課題について、自分の考えをノートに書きます。	・一つの考え方だけでなく、さまざまな考えも書きましょう。

※ ひとり学びを進めていく中で疑問に思うことや、わからないことがあったら、いつでも先生相談しましょう。また、ノートは友達と見せ合ってお互いに学び合いながら高まっていくようにしましょう。

自己教育力の育成の一つの手段にノートに書き込む活動がある。書く活動は個人的な活動である。言葉を使って自分で考え表現する活動である。説明文を読みながら児童が学習課題を深く追求できるように時間や機会を設ける。学習課題を意識させながら「どこに書かれているか」「どこを調べれば答えがはっきりするだろうか」と読む、考える、書く、さらに読むといった一連の活動の展開の中で思考力や表現力や知識も伸びることになる。子どもの学習活動には、個人差があり、遅れがちな子、次なる課題へ取り組んでいる子、多様な活動等さまざまである。それに対応する教師の支援も必要である。自力で学習が進められるように、一人ひとりに「学び方のてびき」をあたえ主体的に取り組ませ、時間をかけて自分なりの考え方学習ができるようにする。例えば、「書き込みのてびき」「要点まとめのてびき」などがある。従来の板書されたものを書き写すだけのノートから、楽しみながら自分なりの考え方書き込み、自分なりの方法で解決してまとめる。さらに友達から学んだ事を書きたすこととで内容が豊かになり、個性のある「自分だけのノート」作りができる。また積極的に書く活動を取り入れることで、一時間ごとの一人ひとりの学習の足跡や思考の変容等が見られ、ペーパーテストでは測れない、個を生かした評価へつなげることができる。



4 発展学習について

めまぐるしい情報化社会の進展と共に、多くの情報の渦の中から自分にとって何が必要であり、何が重要であるかと言う情報を主体的に収集・選択・活用していくことが重視されている。

「子どもが主体的に学ぶ」授業を展開していくためには、課題解決的学習の指導をおこなう必要がある。課題意識をもち学習していくなかで、さまざまな疑問や調べてみたいことが出てくる。それが課題となり、それを追求し解決するために図書・資料を活用させる。さらに学習を深めていくなかで新たな課題が生じもっと調べてみたいという意欲も湧いてくるだろう。そこに発展学習を位置づけ図書館の資料・身の回りの多くの情報から収集した事柄の中から、大切なことを見落とさずにまとめ、自分の考え方や感想を相手に分かりやすく伝えること、表現と伝達の工夫をすることが、これから説明的文章の学習の展開において重要なってくる。また、学習の過程で習熟したことを、他の教科にも生かせるようにし、変化の激しい情報化社会に主体的に対応できる能力の育成を図りたい。

情報機器による情報伝達の進展は、学校教育の現場にも及んでおり資料検索のためのソフトの作成活用も盛んになってきた。国語科の理解指導において、これから時代にふさわしい情報の受け手、表現においては情報の送り手としてのあり方を考え、学習指導過程の中に取り入れ実践していきたい。きたるべき21世紀にそなえて必要な情報を積極的に求め、活用するための指導の充実を図り、将来に役立つ生涯学習の基礎になるように、教育課程の中に計画的に位置づける必要がある。

V 授業実践

1 単元名 段落のつながりに気をつけて

教材名 「キヨウリュウをさぐる」（光村図書4上）

2 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元は「自然に学ぶ」をテーマとした系統的な説明文である。3年生の「ヤドカリのすみかえ」「ありの行列」では、自然に対する新鮮な驚きや感動を学ぶと共に、文章のまとまりを考えて、大事なことをまとめることを経験してきている。本単元は、4年生になって初めての説明的文章の単元である「カブトガニを守る」と「キヨウリュウをさぐる」の2教材で構成されている。読みの過程において、「段落ごとの要点をとらえ、段落のつながりの関係を考えること」を目指し、一連の学習過程のなかで、自然界における発見の楽しみ、人間の暮らしと環境とのかかわり、自然を守ることの大切さを理解させたい。さらに、学んだ過程で新たな疑問が生じ、調べてみようという意欲をもたせ、図書館の資料を活用した学習が進められ、調べたことを自分なりにまとめ友達に伝える能力も育てていきたい。

次単元では、「手と心で読む」の教材を設定し、本単元で培った力を生かして「大事なところを落とさずに」とつなげ考えたことや調べたことをまとめて、みんなで話し合い作文に書かせていく。

(2) 児童観（省略）

(3) 指導観

- 文章を読み深めるための学習課題は、児童一人ひとりの生活体験や実感、既存の知識を駆使して解決していくようにする。
- 読みの過程で「カブトガニを守る・基本読み」と基本教材で習得した読みの能力を生かして「キヨウリュウをさぐる」を自力で確実に読みとることができるようにする。
- 学習指導過程に、個人・相互・一斉学習を効果的に取り入れ、一人ひとりが学習に主体的にかかわり、毎時間自己評価をさせることによって学習の成果を確認し、新たな意欲へとつなげたい。
- 個別学習のための「一人学びのてびき」「書き込みのてびき」「感想を書いてびき」をあたえ自分なりに読み取らせる。
- 書き込みをさせ自分の考えをもって、話し合い活動に参加し自ら学んでいこうとする意欲を喚起させる。
- 書き手の立場にたって、段落の要点や段落のつながりを学習させ、書き手の要旨をとらえさせることによって論理的な思考力を身につけさせる。
- 発展学習として、身近な環境に目を向けさせ、自分の課題に必要な情報を集めたり自分なりにまとめて発表させ、友達同士で相互学習をさせることで成就感をもたせたい。

3 単元の指導目標

(1) 価値目標

人間が生きていくためには、自然との調和が大切であることを考えることができる。

(2) 観点別指導目標

- 自然、科学的なものへ興味をもち読書の領域を広げることができるようにする。<関・意・態>
課題を見つけ、それについて自分で調べ、追求しようとする意欲を持つことができる。
- 文章に則して段落ごとの要点をとらえ、段落相互の関係を考えながら、書かれている内容を正確に読み取ることができる。<理解>
- 読んだ内容から素材を選び、その表現の仕方を自分の文章に生かしたり、段落相互の関係に注意したりして、簡単な文章を書くことができる。
調べたことを、相手に分かるように筋道を立てて話すことができる。<表現>
- 指示語や接続語に注意して、文章を読んだり書いたりすることができる。<言語>

4 単元の指導計画（16時間扱い）

一 次	をカ 守ブ るト ガ ニ	・単元の見通しをもち、初発の感想を書く。	第 1時
		・一人学びのてびきをもとに学習を進める。	第 2・3時
		・事柄のまとまりごとに学習課題を作り、学習計画をたてる。	第 4時
		・課題をもとに書かれている内容を読み取る。	第 5時
		・段落相互の関係を考える。筆者の考えの中心を知る。	第 6時
二 次	ウキ をヨ さウ ぐり るユ	・全文を読んで、あらましを読み取り、初発の感想を書く。	第 7時
		・一人学びのてびきをもとに学習を進める、学習課題を作る。	第 8時
		・課題をもとに内容をまとめ、段落相互の関係を考える。	第 9・⑩・11時
		・文章全体の組み立てを考え、筆者の考えの中心をまとめる。	第 12時
三 次	発 展 学 習	・身近な自然環境に目をむけ、自分なりの課題を作る。	第 13時
		・課題について図書館の本や資料で調べる。	第 14時
		・調べたことを、自分なりのまとめ方でまとめる。	第 15時
		・一年生を招待して「キュウリュウ発表会」をする。	第 ⑯時

5 評価計画

◎国語に関する関心・意欲・態度 ◇表現の工夫 ◆理解の能力 ●言語に関する知識・理解・技能

評価場面	具体的評価目標	十分達成 (A)	おおむね達成(B)	努力を要する(C)
一次 (1) 単元名、題名をもとに感想を書き、学習の目標をもたらせる場面 (発表・ノート)	◎ 単元名、題名をもとに予想をたて、単元の学習に対して興味・関心をもち、初発の感想を書くことができる学習目標を設定する。	新しい単元への強い関心を示し学習への見通しを持った感想を書き、目標をもつことができる。	新しい単元への関心を示し、感想を書くことができる。	新しい単元への関心を示さず、感想を書くことができない。
(2・3) 視写したノートに書き込みをする場面 (ノート)	●◆自分なりに視写したノートに書き込みのてびきをもとに学習できる。	書き込みのてびきをもとに、自分の考え方や課題を段落のつながりも考えながら行間に書き込むことができる。	書き込みのてびきをもとに、自分の考え方を行間に書き込むことができる	支援されると、書き込みすることができる。

6 実 践 例 1 (10/16)

(1) 単元名 段落のつながりに気をつけて

(2) 本時の指導目標

「第二の手がかり」からわかるなどを読み取ることができ、要点をまとめ段落相互の関係をつかむことができる。

(3) 授業仮説

- ① 課題をもち、書き込みをしたノートをもとに、自分の考えをもって学び合うなかで段落相互の関係をつかむことができ、自分の考えを深めることができるであろう。
- ② 本時のまとめにおいて自己評価をさせることによって、学習の成果を確認し新たな意欲へとつなげることができるであろう。

(4) 展開

(評価基準： A：十分達成 B：おおむね達成 C：努力を要する)

過程	学習活動	形態	教師の支援	評価基準
つかむ 5分	1 本時の学習課題を確認する。	一斉	・本時の課題と文章構成をもとに確認する。 第二の手がかりから、皮ふの色や生活の様子をさぐるには、どのようにして想像するのだろうか。	<4の学習活動> 自分の考えをもち段落の関係をおさえることができる<理解> A:自分の考えをもち段落の関係をおさえることができる B:段落の関係をおさえることができる。 C:段落の関係をおさえることができない。
つかめる 20分	2 学習範囲を確認し、全員で音読をする。 3 形式段落の⑥⑦からどんな事がわかったか自分で読みとる。 4 自力で読みとったことを発表し、話し合う。 5 段落相互の関係を考え発表させ、文図に書かせる。 6 中心段落をもとにして要点をまとめること。	個人 一斉 個人	・課題に対する答えの部分、事例の部分はどこか考えながら読ませる。 ・前時までのひとり学びで書き込みしたノートで再度確認し、考えをまとめさせる。 ・重要語句・接続語をおさえさせる。 ・自分の考えを発表させる。友達の発表にも耳を傾け、自分の考えと比べながら聞かせる。 ・発見された場所、地質、ほかの化石、皮ふの色、また、生活の様子の言葉で文図にまとめさせる。 ・段落相互の軽重を考えさせ、「要点まとめのてびき」をもとにしながら要点をまとめる。	A:自分の考えをもち段落の関係をおさえることができる B:段落の関係をおさえることができる。 C:段落の関係をおさえることができない。

(5) 授業の考察

①ノート作りにおいて（資料B.C）

今まで、何をどうまとめてよいのかわからなかった子が「要点まとめのてびき」を活用して大切な事を短くまとめることができた。事前に書き込みしたノートをもとに授業に参加しているので友達の考えを聞いて、気づかなかつたことをさらに書き込みすることができた。

②学び合う場面において（資料A）

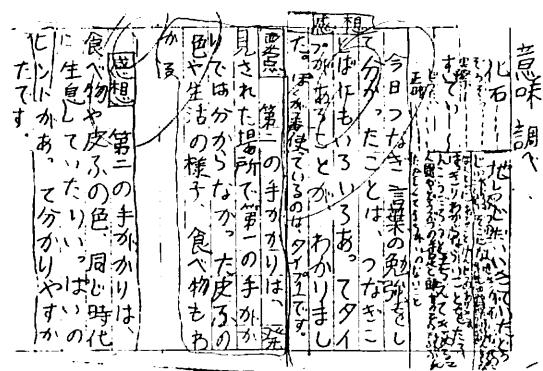
なかなか自分の考えを発表できなかつた子が、書き込みをしたノートをもとに、たどたどしいが発表することができた。また、発表はしないが友達の意見を聞いて自分の考えと同じなんだと共感する子、学び合う中で自分の考えを深めていけるように、今後とも指導を続けていきたい。



A. 学び合う子どもたち



B. ひとり学び中の子ども



C. 自作のノート

7 実践例 2 (16/16)

- (1) 「キョウリュウ発表会」
- (2) ねらい キョウリュウについて、調べたことをわかりやすくまとめ、役割分担を工夫して一年生にわかるように発表することができる。
- (3) 展開 「キョウリュウ発表会」をしよう。(資料D)

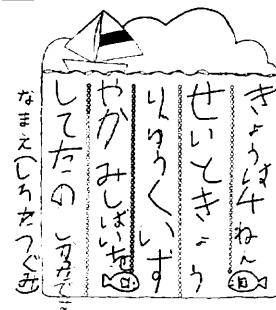
プログラム		しかし (もとやす、てるよ)
1	はじめのあいさつ	さき
2	うた (ピカチュのうた) (トマトのうた)	ゆうき せんせい
3	グループのはっぴょう	
①	たべもの	(かみしばい) けんたグループ
②	ウンチ	(ペーパーサート) まいグループ
③	たまご	(かみしばい) まさきグループ
④	あしあと	(かみしばい) ゆうきグループ
⑤	なぜ、ぜつめつしたか (えほん)	みくグループ
⑥	かせき	(クイズ) かつとグループ
⑦	しゅるい	(かみしばい) あいりグループ
4	一年生のかんそう	
5	おわりのあいさつ	なおき

<発表の場面で評価>

- A : まとめ方・役割分担を工夫し、一年生にわかるように発表することができる。
- B : 調べたことをまとめ発表することができる。
- C : 調べてあるが、発表のためにまとめることができていない。



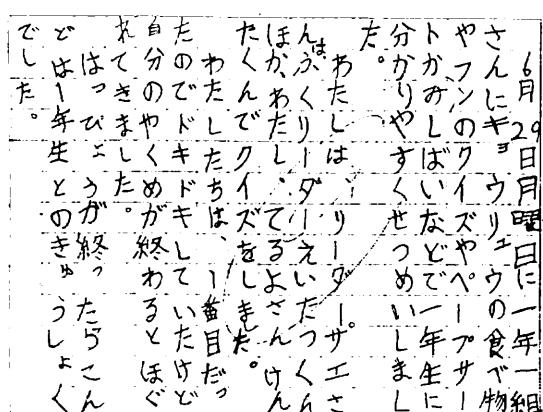
D. 一年生との交流会の様子



F. 1年生の感想



E. 紙しばいで → 発表したグループ



G. 4年生の発表会後の感想

(4) 授業の考察

① 興味・関心から (資料D.F.G)

キョウリュウという子どもにとって興味・関心のある教材を通して、調べてみたいなど意欲をかきたてられ、その意欲を持続しつづけながら目的意識（キョウリュウ発表会をしよう）をもち、主体的に学んだ。

「キョウリュウ発表会」を成功させたいという思いで、どのグループもアイディアを出しあって発表会の計画書を作り、それぞれ役割分担し事前に小道具なども工夫し製作した。それぞれの持ち場で練習し発表に臨んだ。どの子も意欲的に活動し一年生との交流に満足し成就感を味わった。

② 読み取ったことを表現すること (資料E.H)

初発の感想から、こんなこと調べてみたいな（個人課題）をたてさせた。共通課題を解決して後に発展的に調べさせた。学級には、いつでも調べ学習ができるように「キョウリュウに関する図書コーナー」を設置した。個人課題の同じ友達がグループを組んで調べそれを一年生によくわかるようにすきな方法でまとめさせた。そのために、やさしい言葉で大切なことを見落とさないで表現するために、何度も書いては読みかえしとめていた。楽しくするために多様な表現（紙芝居・ペーパーサート・クイズ・絵本）方法を取り入れて積極的に活動できた。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- ひとり学びのてびきをもとに学習を進めることによって、児童一人ひとりが考えをもち意欲的に取り組み自分のペースで教材とむき合い見通しをもって学ぶ態度がみえるようになった。
- 課題解決的学習の進め方がわかり、自分で課題を作り見通しをたて読み進めることができた。さらに次单元の物語教材においても、初発の感想から「なぜ〇〇なのかな」と課題を作ることができた。
- 教材文の行間に書き込みのてびきをもとに、自分の考えを書くことができるようになった。
- 文学作品に偏っていた読書が、説明文の学習をするようになってから4類の自然科学に関する図書に関心を示し読むようになった。
- 図書・資料だけでなく、身の回りにあるいろいろな情報から児童は興味・関心をもって学習するようになった。（折しも、新聞記事にキョウリュウの糞が発見！肉食恐竜の化石発見！）とタイムリーな記事に一層興味・関心はひろがった。
- 発展学習において、一年生を招待して「キョウリュウ発表会」をしようという、目的意識をもたせ調べたことを、わかりやすい言葉でまとめ発表した。多様な表現方法を工夫し、意欲的に学習した。

2 今後の課題

- 「ひとり学びの学習」が習慣化できるような継続指導。
- 目的意識を持って、主体的に学べるような授業の改善。
- 発展学習において、他教科や単元との関連指導が充実するための年間計画への位置付け。

<参考文献>

文部省	『新しい学力観に立つ国語科の授業の工夫』	東洋館出版社	1995年
小森茂、藤井治	『新しい学力観に立つ授業展開のポイント（国語科）』	東洋館出版社	1995年
北尾倫彦	『指導と評価（特集新しい学力観に立った授業のしかた）』	日本教育評価研究	1994 Vol.40
北尾倫彦	『自己教育力を育てる先生』	図書文化	1994年
石田佐久馬	『自己教育力を育てる国語指導』	東洋館出版社	1993年
石田佐久馬	『説明文でなにをどう学ばせるか②－中学年－』	東洋館出版社	1991年
	『表現につなぐ説明文の読み方』研究紀要	白川小学校	1996年